

横浜市感染症発生動向調査報告（令和6年12月）

《今月のトピックス》

- インフルエンザは流行警報が発令されました。重症例の報告も増加しています。咳エチケットや手洗い、換気、適切な湿度を保つように心がけましょう。
- 新型コロナウイルス感染症が増加傾向です。感染・発症予防、重症化予防のために、予防接種も有効です。
- 百日咳の報告が増加しています。マイコプラズマ肺炎、伝染性紅斑の報告も続いています。咳エチケットや手洗いなど、基本的な感染対策を心がけましょう。
- 感染性胃腸炎の報告も増加傾向です。トイレ後、食事の前の手洗いは入念に行いましょう。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心とした幅広い年齢層で患者が多く発生しており、より一層の注意が必要です。

◇ 全数把握の対象 <2024年11月23日～12月22日に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	4件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
A型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
レジオネラ症	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	12件
アメーバ赤痢	1件	梅毒	30件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2件	百日咳	24件

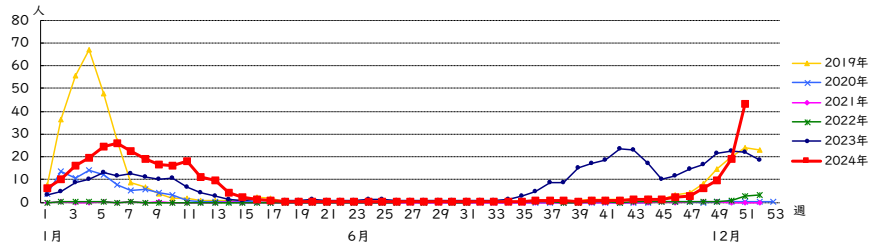
1. **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳代～30歳代で、O血清群はO157が2件、不明が2件です。いずれも感染経路等は不明です。
2. **A型肝炎**:30歳代(ワクチン接種歴無)で、海外での経口感染と推定されています。
3. **レジオネラ症**:肺炎型で、60歳代、感染経路は水系感染と推定されています。
4. **アメーバ赤痢**:60歳代で、感染経路は性的接触(同性間)と推定されています。
5. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:80歳代及び90歳代で、以前からの保菌と推定される報告が1件、医療器具関連感染と推定される報告が1件です。
6. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:30歳代及び60歳代で、感染経路はいずれも性的接触(同性間1件、異性間1件)と推定されています。
7. **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:60歳代及び80歳代(ワクチン接種歴無1件、不明1件)で、その他の感染経路と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
8. **侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満～90歳代(ワクチン接種歴4回2件、無4件、不明6件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が5件、飛沫・飛沫核感染または接触感染と推定される報告が1件、その他の感染経路と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が5件です。
9. **梅毒**:10歳代～60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期13件、早期顕症梅毒Ⅱ期10件、無症状病原体保有者7件です。性的接触による感染と推定される報告が27件(異性間22件、同性間3件、詳細不明2件)、感染経路等不明が3件です。
10. **百日咳**:10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴4回6件、3回1件、無2件、不明15件)で、家族内感染と推定される報告が3件、周囲の流行と推定される報告が5件、感染経路等不明の報告が16件です。

◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
2024年第48週	11月25日～12月1日
第49週	12月2日～12月8日
第50週	12月9日～12月15日
第51週	12月16日～12月22日

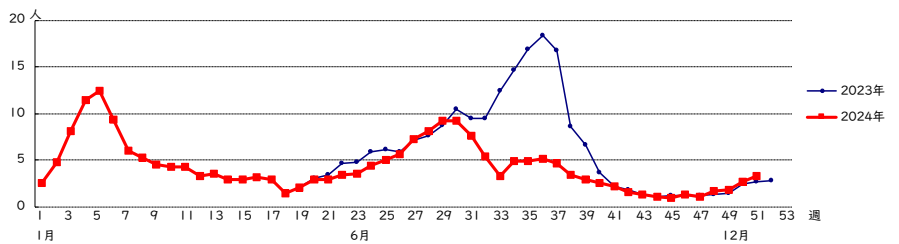
1 インフルエンザ

2024年10月下旬(第43週)に流行期に入りました。12月中旬(第50週)には流行注意報の発令基準(10.00)を上回り、第51週には43.15と、流行警報の発令基準(30.00)を上回りました。詳しくは横浜市インフルエンザ流行情報9号をご覧ください。



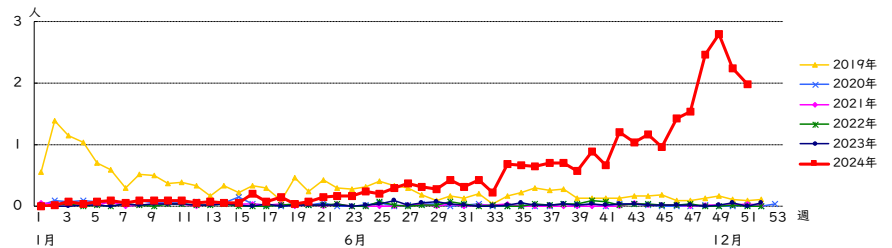
2 新型コロナウイルス感染症

2024年1月下旬(第5週)に1回目(12.45)、7月中旬(第29週)に2回目(9.15)のピークを迎え、減少後は横ばいの状態が続いていましたが、11月下旬(第48週)以降増加に転じています。第51週は3.33です



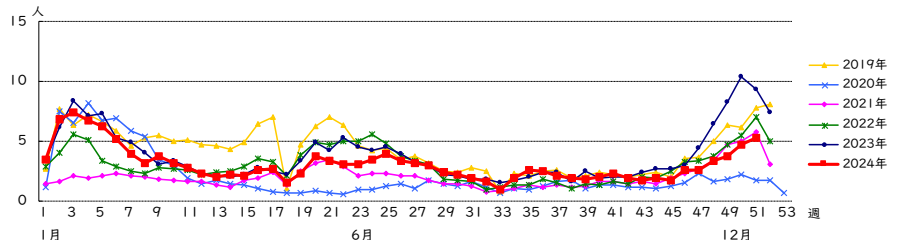
3 伝染性紅斑

2024年5月中旬(第20週)以降増加傾向となり、例年よりも多い状態で推移しました。11月下旬(第48週)に流行警報発令基準値(2.00)を上回りました。12月上旬にピークを迎え、以降減少傾向です。第51週は1.98です。



4 感染性胃腸炎

2024年11月中旬(第46週)以降増加傾向に転じています。第51週は5.21です。



5 性感染症(2024年11月)

性器クラミジア感染症	男性:34件	女性:20件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:8件	女性:9件
尖圭コンジローマ	男性:16件	女性:0件	淋菌感染症	男性:9件	女性:2件

6 基幹定点週報

	第48週	第49週	第50週	第51週
細菌性髄膜炎	0.25	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.25	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	4.25	3.00	2.50	1.75
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

7 基幹定点月報(2024年11月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	18件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ(内科)定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹(病院)定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

2024年第48週～第51週に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点36件、インフルエンザ(内科)定点12件、基幹(病院)定点1件でした。

1月7日現在、表に示した各種ウイルスの分離27株と遺伝子10件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果 (2024年第48週～第51週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ	手足口病	胃腸炎
インフルエンザウイルス AH1型pdm09		1	22		
		-	-		
インフルエンザウイルス AH3型			1		
			-		
新型コロナウイルス			-		
			1		
パラインフルエンザ 3型	-				
	1				
アデノウイルス	-	-			
	1	1			
アデノウイルス 41型					1
					-
ライノウイルス	-	-			
	2	2			
コクサッキーウイルス A16型		-		-	
		1		1	
エンテロウイルス A71型				2	
				-	
合計	-	1	23	2	1
	4	4	1	1	-

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2024年第48週～第51週の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症4件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症3件、侵襲性インフルエンザ菌感染症2件、侵襲性肺炎球菌感染症1件、菌血症1件でした。

医療機関からの検査依頼は、サルモネラ症1件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は溶血性レンサ球菌感染症3件及び咽頭炎1件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査（2024年第48週～第51週）

菌株同定	項目	検体数	血清型等
保健所	腸管出血性大腸菌感染症	4	Og109 : H21 VT2 (3) O103 : H2 VT1 (1)
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (1) <i>Klebsiella aerogenes</i> (1) <i>Serratia marcescens</i> (1)
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2	<i>Haemophilus influenzae</i> 型別不能 (2)
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 23A (1)
	菌血症	1	<i>Elizabethkingia anophelis</i> (1)
医療機関	サルモネラ症	1	<i>Salmonella</i> O7群 (1)

小児サーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	溶連菌感染症	3	A群溶血性レンサ球菌 T4 陽性 (3)
		咽頭炎	1	B群溶血性レンサ球菌 Ia 陽性 (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】